



# 但馬国府・国分寺館ニュース

編集・発行

2009.3 第16号

但馬国府・国分寺館  
Museum of Tajima Kokufu and Kokubunji

〒669 5305 兵庫県豊岡市日高町林布 808  
TEL 0796-42-6111 FAX 0796-42-6112  
http://www.city.toyooka.lg.jp/kokubunjikan/



横穴式石室に副葬された須恵器と土師器  
(7世紀/豊岡市但東町・赤坂古墳第1号墳出土/日本・モンゴル民族博物館蔵)

## 第16回企画展 古代陶芸の粋 須恵器

焼き物は食器だけではなく、陶芸作品から便器にいたるまで、私たちの生活に欠かすことのできない道具です。それは、今から1万年前の縄文時代から現代まで、絶えることなく作り続けられてきました。

須恵器は、今からおよそ1500年前、古墳時代に朝鮮半島から伝わった焼き物です。縄文・弥生土器などは異なり、ロクロを使って成形し、専用の窯で焼くという、最先端の技術によって作られた須恵器は、焼き物の歴史に新しい風を吹き込みました。さらに、須恵器生産で培われた窯業は、やがて中世の六古窯へと受け継がれ、現代へと続いているのです。

今回の展覧会は、主に豊岡市内から出土した須恵器

から、その美しさや移り変わりを知っていただくために企画しました。この展覧会が、豊岡の古代史の一端を、ひいては日本陶磁史の礎<sup>いしづえ</sup>となった須恵器を理解する一助となれば幸いです。

### ■ 展覧会名・会期

第16回企画展「古代陶芸の粋 須恵器」  
平成21年3月26日(木)～7月7日(火)

### ■ 展示協力機関・個人(50音順・敬称略)

東京国立博物館/豊岡市出土文化財管理センター  
日本・モンゴル民族博物館/養父市教育委員会  
谷本 進/山根 実生子



## ● すえき 須恵器とは何か

須恵器は、古墳時代から平安時代に作られた青灰色の焼き物のこと。朝鮮半島南部で成立した陶質土器が源流です。5世紀前半に伝来したその技術は、ロクロを使った成形技法と窖窯による焼成方法が特徴で、それまでの日本にはない画期的なものでした。

須恵器と同時期の焼き物に、土師器があります。須恵器は、密閉された窯で焼き、灰色になるのに対し、土師器は、弥生土器の技法を受け継ぎ、野焼きで焼いて赤くなるのが特徴。作り方や色が違っても、いずれも貴族から庶民までが使う一般的な焼き物でした。



土師器(左)と須恵器(右)  
(8世紀/但馬国分寺跡出土)

## ● 須恵器の多様さ

須恵器には、貯蔵具(壺・甕)や供膳具(皿・杯・碗)、調理具(甑・播鉢)、文房具(硯・水差し)、祭祀具(装飾付須恵器)など多様な形や用途が見られます。器種構成は時代により消長がありますが、主に日常的に使う器として、広く使われていました。

しかし、熱に弱い須恵器は煮炊き用の鍋には不向き。逆に、硬くて水を通しにくい性質から、貯蔵用の壺として重宝されてきました。このように、須恵器はその特性を生かすことのできる食器や貯蔵具として使われることが多かったのです。



さまざまな形の須恵器  
(7世紀/赤坂古墳第1号墳出土)

### Topics

#### 「釉薬」と「自然釉」

釉薬とは、焼き物の表面に見えるガラスのようなもの。色を変えたり、水が漏れないようにする効果があります。須恵器は、釉を掛けずに焼いた素焼きの焼き物。しかし、一部の須恵器には、窯の中で灰が降り掛かって固まった「自然釉」が付着したものがああります。これが釉薬の原点であり、須恵器が日本陶磁の礎とよばれる所以でもあるのです。



自然釉の掛かった須恵器

## ● 飾りの付いた須恵器

須恵器には、小さな壺や人物・動物像などを貼り付けて飾った「装飾付須恵器」があります。大半は古墳から出土しているため、葬送儀礼や祭祀に用いられたと考えられています。また、装飾付須恵器が出土する古墳は数少ないため、有力な首長のものだったに違いありません。さらに、装飾付須恵器は造形美に富み、技術的にも優れています。陶芸の源流とよぶにふさわしく、古代人の感性の豊かさを感じることができます。

### Topics

#### 装飾付須恵器



たつの市西宮山古墳出土の装飾付須恵器



子持台付壺  
(7世紀/赤坂古墳第1号墳出土)



鳥形瓶  
(7世紀/北浦横穴墓群出土)



装飾付須恵器(部分)  
(7世紀/大藪古墳群出土/  
養父市教育委員会蔵)



## ● 須恵器の「時」を知る

須恵器は、時を知るものさし。なぜなら、須恵器の変化から時の流れが見えてくるからです。須恵器の形が変わる理由の一つは、需要の増加に応じた大量生産化（＝粗雑化）。それは死生観や生活スタイルの変化など、政治・社会・文化とも密接に連動した変化なのです。



5世紀

6世紀

7世紀

7世紀

「提瓶」という須恵器の形の移り変わり（『日本陶磁全集』より）  
吊り手に注目すると、環状→円い粘土を貼ったものへと簡素化しています。

## ● 須恵器を焼く

須恵器は、窖窯を使って高温で焼かれた焼き物。但馬では、円山川流域を中心に、5世紀～10世紀の須恵器窯が見つかっています。ただし、それぞれの窯の数は少なく、生産体制は小規模なものでした。これは、但馬における須恵器の需要があまり多くなかったことを意味しているのでしょうか。

しかし、9世紀代の窯など、資料はまだ不十分。須恵器の生産・供給体制の解明には、まだ時間がかかりそうです。



須恵器窯の発掘調査（7世紀／鬼神谷3号窯）



融着した須恵器（10世紀／内町2号窯出土）



窯壁（6世紀／宮ノ谷2号窯出土）

## ● そして、六古窯へ

六古窯とは、中世を代表する6つの窯のこと。瀬戸（愛知県瀬戸市）、常滑（愛知県常滑市）、越前（福井県越前町）、信楽（滋賀県甲賀市）、丹波（兵庫県篠山市）、備前（岡山県備前市）をさします。

六古窯は、12～13世紀に生産が始まり、他の窯よりも広い商圈をもち、現代まで続いている点で共通しています。いずれの窯の系譜も、古墳時代から続いていた須恵器生産の延長線上にあるため、須恵器は「日本陶磁史の礎」とも言われているのです。



東播系須恵器  
（13世紀／  
若宮3号墳出土）



越前焼壺  
（14世紀／妙楽寺  
ヒシロ遺跡出土）



丹波焼壺  
（14世紀／妙楽寺  
ヒシロ遺跡出土）



備前焼壺  
（14世紀／香住  
門谷遺跡出土）

### Topics

#### とうばんけい 東播系須恵器

平安時代末に成立した、中世須恵器のこと。神出窯（神戸市西区）や魚住窯（明石市）など、播磨東部に生産拠点があることから、この名前が付けられました。古代の須恵器の伝統を受け継ぎながらも、片口鉢（播鉢）や椀・小皿など器種を限定し、大量生産していました。12～13世紀には西日本に広く供給されていましたが、14世紀には備前窯に主役を奪われ、衰退していったと考えられています。



# 但馬国府・国分寺館 名品ギャラリー

## ⑭ えんめんけん 円面硯

祢布ヶ森遺跡（豊岡市日高町祢布）出土／9世紀／土製



役人のことを「刀筆の吏」とよぶことがあります。これは、古代の役人が文字を書くときに「筆」を、文字を消すときに「刀（＝ナイフ）」を使うから。文書を多く作成する役人にとっては、「刀」と「筆」は必需品だったのです。

但馬国府の跡である祢布ヶ森遺跡からは、多くの硯が出土しています。現代の硯は石製ですが、古代の硯は須恵器製。円盤のような円い形をしていて、その上面で墨を擦って使っていました。ただし、円面硯を使うことのできた役人は一部だけ。多くの下級役人は、須恵器の蓋の裏側を使っていたのです。

## お知らせ

### ■ 但馬国府・国分寺館 販売書籍のご案内

但馬国府・国分寺館では、常設展示図録や年報、発掘調査報告書などを多数販売しています。遠方の方には郵送による販売もしています。内容、在庫の有無や購入方法などは、お気軽にお問い合わせください。

（お問い合わせ：但馬国府・国分寺館 TEL 0796-42-6111）

書籍名	発行年	価格	発行機関
常設展示図録	2006	1000円	国分寺館
但馬国府・国分寺館年報 1号	2007	500円	国分寺館
但馬国府・国分寺館年報 2号	2008	500円	国分寺館
但馬国府・国分寺館年報 3号	2009	500円	国分寺館
わたしたちのまち但馬 —木簡から見た但馬の古代—	2004	1000円	日高町教育委員会
日高町の自然	1998	1000円	日高町
日高町史（下）	1983	5000円	日高町
但馬国分寺展	1994	250円	日高町教育委員会
但馬国国分寺の礎石の調査考証	1994	250円	日高町教育委員会
祢布ヶ森遺跡	1990	250円	日高町教育委員会
法尺谷古墳群 発掘調査概報	1985	250円	日高町教育委員会
久田谷遺跡	1985	250円	日高町教育委員会
川岸遺跡 発掘調査概報	1999	250円	日高町教育委員会
祢布ヶ森西遺跡調査報告書	1976	500円	日高町教育委員会
但馬の古代	2002	1000円	但馬文化協会
但馬の古代2	2005	1000円	但馬文化協会
但馬の民俗芸能	2003	1000円	但馬文化協会
但馬のこうのとりの	2005	1200円	但馬文化協会
但馬の仏像	1983	1500円	但馬考古学研究会
但馬を掘る	1990	1200円	但馬考古学研究会
徹底討論 大藪古墳群	1994	2500円	但馬考古学研究会
但馬考古学5～10		1000円	但馬考古学研究会

### ■ 企画展関連 館長講座「但馬における須恵器生産」

日時：6月13日（土）午後1時30分～3時

場所：但馬国府・国分寺館 映像ホール

講師：加賀見 省一（当館館長）

\*聴講無料。申込みも必要ありません。

定員：40名

聴講  
無料

### ■ 企画展関連 学芸員講座「須恵器の年代を知る」

日時：5月16日（土）午後1時30分～3時

場所：但馬国府・国分寺館 映像ホール

講師：前岡 孝彰（当館学芸員）

\*聴講無料。申込みも必要ありません。

定員：40名

## 但馬国府・国分寺館 ご利用案内



■ 開館時間 午前9時～午後5時

■ 休館日 水曜日（祝日の場合は開館し、翌日休館）

年末年始（12月28日～1月4日）

■ 入館料 大人 500（400）円、高校生 200（150）円、  
小中学生 150（100）円

\*（ ）は20名様以上の団体料金

\* 県内小中学生は無料

\* 65歳以上の方は半額

■ 最新情報はホームページをご覧ください

<http://www.city.toyooka.lg.jp/kokubunjikan/>



ホームページ QRコード